

2 学期始業式式辞

みなさん、おはようございます。みなさんの元気な顔を見ることができ、大変うれしく思います。会社訪問・オープンキャンパス、部活動、アルバイトと充実した夏休みだった人、何をしたかなあと、記憶にない人。いずれにしても、今振り返れば、あっという間に過ぎた夏休みだったのではないのでしょうか。みなさんは、どんなことが最も印象に残っていますか。

私の夏の思い出を3点お話しします。

1つ目は、今年度本校が学校家庭クラブの県の事務局で7月末に宮崎で行われた研究発表の全国大会に、私と生徒会長の青木さんと顧問の浦野智佳子先生の3人で参加したことです。

全国からは1200人の参加がありました。宮崎県の高校生が、各都道府県のプラカードを持って参加者をお出迎えし、いろいろな企画で参加者をおもてなしする生徒主体の活動が印象的でした。素晴らしいホスピタリティの研究大会でした。

発表は個人の研究発表であるホームプロジェクトについてと、家庭クラブとして学校をあげての取組についての2部門がありましたが、どれも素晴らしい取組でした。機会があれば皆さんに還元できるといいと思います。

2つ目は、先週末に家庭クラブの出張で東京から高崎駅に戻ってきたら、駅が高崎まつりの人でごったがえしていたことです。花火大会が始まる前だったので、花火目当てで集まった人達だと思われそうですが、今まで見たことないようなすごい人出でした。

別の日にたまたまFMラジオ高崎を聞いていたら、高崎まつりの広報部長から、今年の高崎まつりの取組について話すのが聞こえてきました。その話の中で、私は高崎まつりの今年のスローガンが心に刺さりました。スローガンは「主人公～一人ひとりの高崎まつり～」です。高崎まつりは、市民が参加して楽しむことを目的とする、市民が主人公となって作り出す、市民のための祭りです。市民一人ひとりが主人公となって祭りを楽しみ、最高の夏の思い出を作ってもらえるように、という思いからスローガンを決めたそうです。その時「あっ同じだ」と思いました。榛名高校の今年キーワードと思いは同じだと思えます。今年の高崎高校は「全員参加が基本 活気あふれる小さな学校～あっとほ一む高～の実現 一人一人が目標に向かってチャレンジし、全員が主役になれる学校」を目指しています。

3つ目は、「人生は敗者復活戦」という言葉です。これは昨年・今年と高校野球で甲子園をわかせた仙台育英高校硬式野球部 須江 航監督の言葉ですが、この夏に2度聞きました。

最初は、高校野球甲子園の決勝戦をテレビで観戦していましたが、慶応高校に敗れて準優勝に終わった試合の監督のコメントとして、「人生は敗者復活戦」は来年は優勝目指すという意味かなと聞きました。

2度目は、その2日後に仙台で行われたPTAの全国大会にオンラインで参加し、その講演会で聞きました。前日甲子園から帰った須江監督が講師でしたが、その時の話を紹介します。

須江監督によると、自分の人生は敗者復活戦／仙台育英高校OBだが、選手としての実績はない／大切なのは挫折との向き合い方／挫折のない人生など存在しないし、面白くない／瞬発力ではなく、持久力／粘り強く、成否が見えるまでやりきる力／成功はアートみたいなもので再現性がない（「再現性」＝「学び」に近い意味か）／失敗すること＝挑戦すること 挑戦が大事／失敗は再現性（＝「学び」）がある／挑戦から人生を1度変える（180度変えると持続できない）／何度失敗しても自分を許して、学び続けること／最後は「気合い」「根性」「ガッツ」だともおっしゃっていました。

チャレンジし続けることは、学び続けることであり、成長し続けることだと思います。一生懸命努力を重ねる人たちには、必ずサポートする人がいます。みなさんには、ご家族、友人、そして、我々教職員が応援していることを忘れないでください。

さあ、2学期のスタートです。みなさんは、どんな2学期にしますか。期間が長く、様々な学校行事があります。1年生は福祉体験が、3年生は就職試験が、すぐそこまで迫っています。体育祭 文化祭 2年生は修学旅行もあります。2学期最後にはマラソン大会もあります。

チャレンジハイスクールの柱である、「体験型自己開発学習」・「人間（ひと）づくり学習」の深い学びが得られるチャンスです。一人一人が目標に向かってチャレンジし、全員が主役になれるチャンスです。今何をすべきか、ぜひ周囲の状況をよく見て、意見をしっかりと交わし、友人やご家族と協力しながら一つのことを粘り強く、持久力で根気よく作り上げる2学期にしましょう。2学期の終業式では、我ながらよく頑張った2学期だったと、みなさん一人一人が思えるようにしてほしいです。「全員参加が基本」で、居心地のいい学校にするため「みそあじ」運動の実践も忘れずに。以上で終わります。